

「米の流通」の真実

さつきクラブ

店頭からお米が消え、入手が困難となると共に、価格が上昇し、生活に支障をきたしている今日このごろです。「令和の米騒動」と伝えられていますが、「平成の米騒動」も大変だったことを思い出して下さい。令和も平成も同じ6年でした。いっとうなるかわからない状況の時こそ、「米の流通」に関して再度認識することを必要と考えました。

歴史から考えると

「平成6年の米騒動」は戦後最大の酷暑を迎え、8月は水不足に話題が変わりました。当時の作況指数は75と最悪となり、毎年1000万トンから1100万トンとれた新米がわずか783万トンしかとれず、不足分であった約220万トンの農水省の備蓄米も底をつき、とうとう206万トンの緊急輸入となりました(*)。この結果、私たちの食卓には輸入米が登場しました。

当時は「政府米」「自主流通米」「特別栽培米」「自由米」「提携米」「縁故米」「多様途利用米」「特定米穀」で区切られていました。

(*)【参考】第16回武蔵野市民消費生活展(平成6年10月開催)の冊子12ページ「お米をさぐる」(多摩東商品テストOB会執筆)

平成の米騒動(平成5年産米の不作～平成6年の米不足)

6 過去の不足時の状況と対応①(平成5年)

- 平成3年産米の不作等により、5年10月末の国内産米の在庫は政府と民間をあわせて23万トンの低水準。5年産米の作柄は、稲の活着・生育に重要な6月～8月の天候が総じて低温・日照不足で推移したため、7月に公表された5年産米の生育状況は、日本各地で平年よりも相当程度低下すると見込まれた。
- その後、8月15日現在の作況指数95、9月15日現在の作況指数80と発表され、米の需給が相当厳しい事態と見込まれたため、まず、9月に年末年始の需要に対処できるよう20万トンの輸入を決定。
- さらに、北日本を中心とした冷害、西日本を中心とした台風、長雨、全国的に多発したもち病等の発生により、10月15日現在の作況指数が9月の80をさらに下回る75へと悪化した事態を踏まえ、追加輸入を順次行い、最終的には、米国、豪州、中国及びタイから合計259万トンに上る米の緊急輸入を実施。
- このような異例の米需給環境の下で、全国隅々まで米を公平かつ安定的に供給していくためには、自主流通米と政府米による一体的な需給操作が必要不可欠であることから、自主流通米については、県別・時期別の管理を行うとともに、自主流通米価格形成機構においては、臨時緊急措置として、第3回以降の入札を延期することとし、入札を延期している間の取引は、値幅制限(2～4年産米の取引指標価格における加重平均価格の±7%)の範囲内で相対取引により行われることとなった。
- 6年2月以降、主食用として政府の緊急輸入米と国内産米(自主流通米)を供給してきたところであるが、輸入米に対する嗜好・品質の問題及び予想を超えた猛暑による米消費量の減少や大量かつ早期の新米出回り等により需給が大幅に緩和する中で、緊急輸入米の需要は大きく減少。このため、緊急輸入米の販売数量は161万トンにとどまり、結果98万トンの販売残が発生し、援助用や飼料用に処理。

(農林水産省 HP から資料「米の備蓄運営について①」より抜粋)

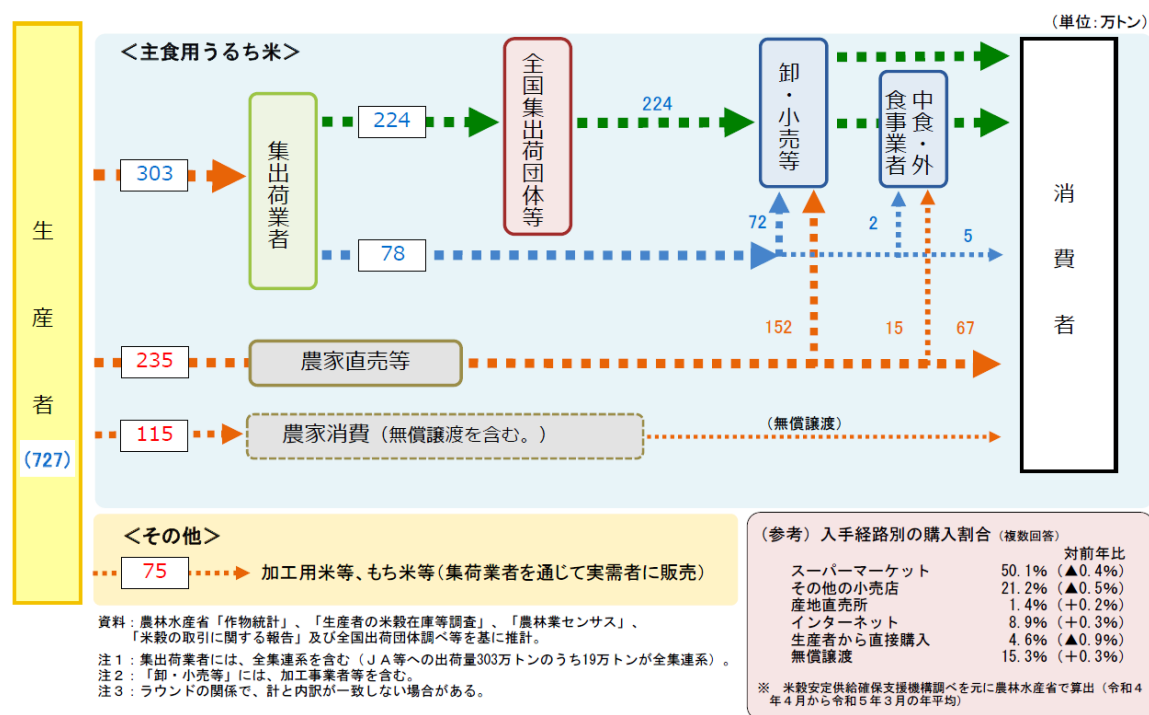
一般的なルート

農家の手で収穫された米 → 地元の農協（ＪＡ）へ出荷 → 卸売業者へ販売 → スーパーマーケットや米屋へ販売 → 店頭

但し、美味しい米やそうでもない米が混じり、米本来の美味しさがわからないことが多い状況です。

最近では、美味しさを求めて、「産直米」を選ぶ人が増えています。

米の流通経路別流通量の状況（令和４年産米）



（農林水産省資料「米をめぐる状況について」令和7年1月より抜粋）



（農林水産省資料ホームページより転載）

米トレーサビリティ法とは

米や米加工品に問題が発生した場合に、流通経路を迅速に特定するための法律です。正式名称は「米穀等の取引等に係る情報の記録及び産地情報の伝達に関する法律」といいます。サビリティ法は、米や米加工品に問題が発生した場合に、流通経路を迅速に特定するための法律です。正式名称は「米穀等の取引等に係る情報の記録及び産地情報の伝達に関する法律」といいます。

米が消費者に届くまで

日本の米の流通には、3つのルートがあります。

① 「自主流通米」 ② 「政府備蓄米」 ③ 「農家が直接売る米」です。

① 自主流通米

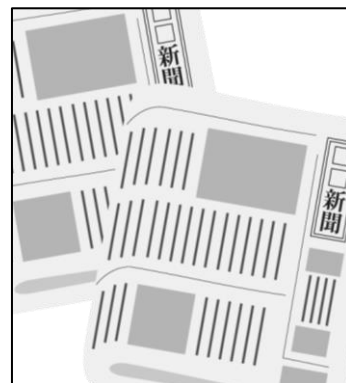
農家で収穫された米は、一度ＪＡなどに集められ、その年の米の出来具合によって値がつけられて出荷されます。そして、全国各地のスーパーマーケットや米屋さんに送られます。

② 政府備蓄米

冷害などにあい、米などあまりとれない米のことです。自主流通米の価格を安定させたり、米の不作の年に備えて、政府が買う米です。倉庫にしばらく保管された後、新しい米に入れ替える時に売られます。

③ 農家が直接売る米

米は長い間、国が管理していて、自由に販売することができませんでした。1995年（令和7年）以降、国の制度が変わり、農家が米を直接消費者に売ることができるようになりました。





NHK 放送からの情報

米が家庭に届くまでには、3つの流れがあります。まず「自主流通米」という流れです。農家からJAなどによって集められた米は、モミや玄米で保管され値段がつくのを待ちます。値段が決まると、卸売り業者や米屋、スーパーマーケットなどに売られます。こうして、家庭に届くお米が「自主流通米」です。もうひとつの流れが「政府米」です。自主流通米の価格を安定させたり、米の不作の年に備えて、政府が買う米です。政府米は、倉庫で一年以上保管された後、売られます。最近では、直接、消費者に米を売る農家が増えています。平成7年から、農家は、事前に届け出を出せば、自由に米を売ることができるようになりました。これらは、米を家庭に確実に届けようと考えられた仕組みです。

新聞の情報から

2025 3/15 毎日新聞朝刊

- 米国の方が安い。カルフォルニア産 5キロ 2100 円

2025 3/20 毎日新聞朝刊

- コメ作付面積拡大する。4年ぶり水準2.3万ヘクタール増
- 2月コメ価格最高値を更新した。2ヶ月連続 農林水産省報告

2月の2024年産米の全銘柄平均価格は、玄米60キロあたり2万6485円だった。比較できる1990年以降の単月の最高価格を2ヶ月連続で更新した。前年同月に比べて、73%上昇し、金額では1万1182円円値上がりした。

2月に21万トンの備蓄米を放出すると発表したけど、価格高騰に歯止めはかからなかった。実際の放出を受けて、価格が安定していくかどうか焦点だ。全銘柄平均は、1月に単月での最高値を更新。それ以前の最高値は2003年12月の2万5120円だった。

2025 3/25 毎日新聞朝刊

- 米不足余波 販売終了

サトウ食品（新潟市）は、24日、国内の米不足による

出荷値調整のため、パックご飯の一部商品を販売終了すると発表した。商品担当者は、「商品を絞り、生産を強化する。パックご飯に使う米が足りないというわけではない。」と説明した。

2025 3/25 毎日新聞朝刊

- 京都の老舗 苦渋の決断
「米屋ですが 米ありません。良質な米が安定供給できるまで店を閉めます。ごめんなさい。」
- 備蓄米も回らず
国による備蓄米の放出には一時期待し、関係する業者に備蓄米を回してもらえるように頼んでみたが、これも「米を回すのは難しい」と実現しなかった。 秋再開目指す。
- コメ 5 キロ 4175 円 最高値 更新

2025 4/1 毎日新聞朝刊

- コメ業者競争激化、高騰か。
全国スーパー価格 2 倍超になる。
備蓄米納めず転売か。

2025 4/8 毎日新聞朝刊

- コメ 5 キロ 4206 円
13 週連続値上がりした。

2025 4/11 毎日新聞朝刊

- 米不足でも生産抑制。
迷走行政に「農家なめるな」

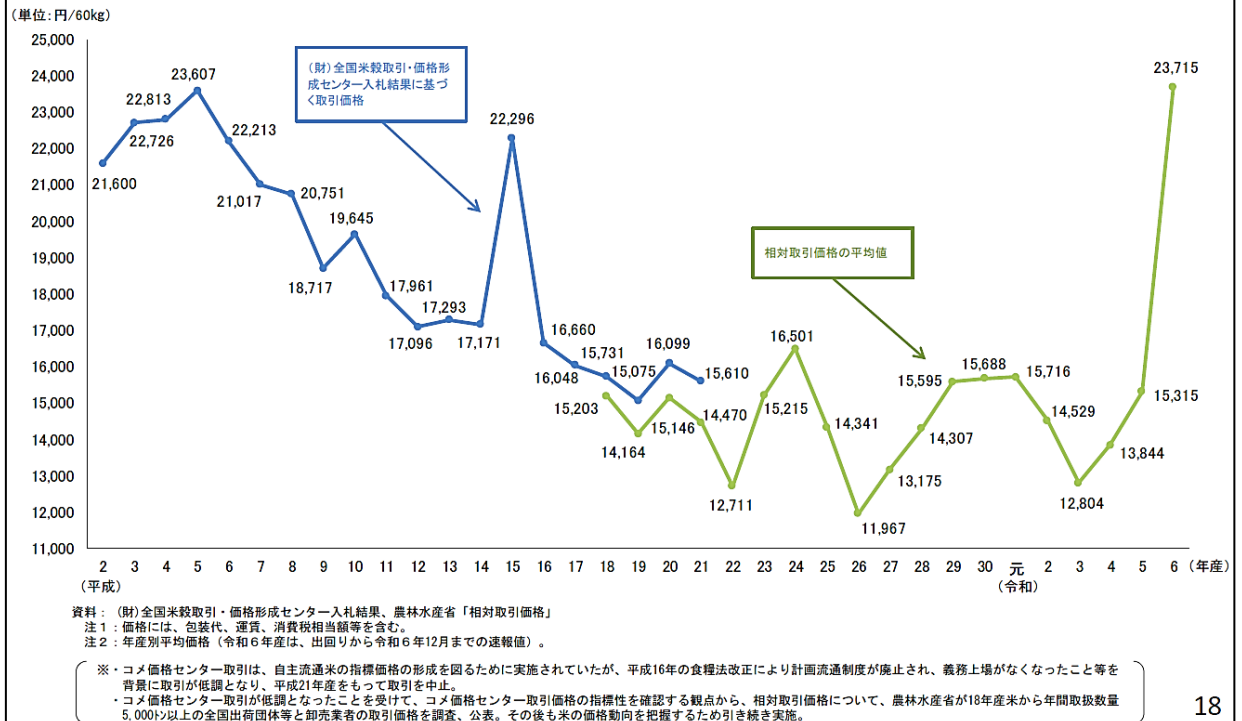
2025 4/15 毎日新聞朝刊

- 農相は、業者にコメ円滑な流通要請した。
14 週値上がり

2025 4/29 毎日新聞朝刊

- コメ値上がり続く。
16 週連続 5 キロ平均 4229 円

長期的な主食用米の価格の動向



18

(農林水産省資料「米をめぐる状況について」令和7年1月より抜粋)

購入経験から

いつも山梨県の富士河口湖町で米を購入しますが、行ってみると、一人5キロ。買う予定の米がなく、「あかふじ」しかない。但し少し安め。しかし5キロ3990円でした。(2025年4月17日現在)しかし、お米が売っているだけで、美味しさ倍増でした。



さつきクラブでは 会員や知り合いの皆様にアンケートをお願いしました。

20 名

2025 年 5 月 31 日現在



「米の流通」に関して、貴重な意見を頂きました。

(1) 今の米の販売に関して不安に思うことは何ですか

① ストックが尽きる 6 名 ② 値段が高すぎる 16 名

③ その他 2 名

(農家が振り回されて心配)

(2) 本当に米がなくなった場合、何で代用しますか

① うどん 13 名 ② 蕎麦 10 名 ③ スパゲティ 8 名

パン 13 名 ⑤ 餅 1 名 ⑥ ラーメン 2 名

⑦ その他 3 名 入手可能なもので・いも・オートミール

おかずやお酒で済ます

(3) 購入場所

① スーパー 8 名 ② デパート 0 名 ③ 生協 11 名

④ その他 3 名 (昔からのお米屋さんから 等)

(4) 現在の米の流通について御意見を下さい。

・ どうして急にお米がこんなに足りなくなったのか、疑問です。

・ お米が品薄になり、その結果、値段が上がったのだと思うが、誰がその利益を得ているのかと思う。しかるべき人にお金がいっているなら納得もいくのだが、そうではない感じがしてしまうことにモヤモヤしてしまう。

・ 農協の仕組みも怪しく思えたり、備蓄米の入札や随意契約、今ひとつよくわからない。

・ お米農家の方の収入が少なすぎて、後継者もなく高齢化、何年後かには、お米農家が激減するというニュースも聞くので、今後もお米を作り続けてもらえるよう、適正な対価がお米農家に支払われるようになってほしいです。

・ 米だけでなく、日本の農政全体が心配です。

・ ご飯が高級品になっている。

・ お値段が上がっているが、だれがどれだけでもうけているという状況でなければいいが――

・ 政府が備蓄米を毎回放出していますが、いっこうに値段が下がらないのは、ほとんど JA に卸しているからだと言われています。原因がわかっているなら早急に効果のある対策をして欲しい。

・令和の米不足と言われて、店頭から米が消え、高値が続いています。米の入札制度において、卸売業者が自由に米を入札できないと聞きます。入札制度を再考し、消費者が自由に選択できるようにして欲しいです。備蓄米はスーパーに並んでいません。どうなっているの？

・流通経路が消費者にわかりにくい。農家が直接消費者に売れるしくみがあれば良い。

・政府が備蓄米を放出しているのに、何故値段が下がらないのか不明なのは何故？

・備蓄米放出の効果が出ない理由がわからない。

・米の値段が2倍近くまで上がり、家計を圧迫しているが、主食のお米が売り切れて手に入らないのが一番つらいです。今後も日本のお米を食べていきたいですが、異常気象や農家の高齢化などで日本の農業の未来が心配です。

・海外では、コシヒカリが5Kg3000円で売られていることを聞くと、日本人がどうして食べることができないのかと思う。もっと消費者目線で米を流通させるしくみが必要だと考えます。農家さんと直接やりとりできるしくみを作り、農家さんが適正価格でやりとりできるしくみにして欲しいと思います。

・流れがわからない。

・日々“米騒動”の状況が変わり、真実は不明。主食だけに農家を保護しながら、安定的に納得のいく価格で供給するのは、今も昔も同じ。

・もう少し低価格で安定して欲しい。

・放出米はどこに行ってしまったのでしょうか。主食のお米は流通のわかるようにして欲しい。

・スムーズに米が買えるようになって欲しいです。(原因は、対策はなかなか難しい点があるかと思いますが)

・国産米で持久することは大切だと思います。

・今回の大混乱でしくみがさっぱり分かっていないことに気づいた。消費者の立場としては、状況に合わせて希望するグレードの米が適切な価格で手にはいることが良いと思う。現状は何かおかしい。

まとめ

何とも言えない騒動に直面しました。

アンケートから考えられるように、この状況を繰り返してはいけません。

代替品として、ホットケーキミックスなどの家庭用、餅米、パスタなどが注目されました。

大手外食チェーンや飲食店、コンビニはコメ卸業者や農家と年間契約しているため、騒動時も米不足とは無関係でありませんでした。一部の市販で米を仕入れる外食産業では無料での米飯の大盛りやお代わりの提供を取り止める動きも発生しました。

ふるさと納税の返礼品として発送される白米を得るために寄付する者も大きく増加していましたが、利益を圧迫していることから贈呈を取り止める事例も起きました。

備蓄米は国の倉庫で保管されているのではなく、民間の倉庫で保管されていますが損失が多く、備蓄米保管中は保管費用が発生し、倉庫運営会社に廃業を検討する会社が出てきました。

新聞でもいろいろと追いかけてきましたが、真実は発見できませんでした。下記をモットーとして、真実をみつけていきましょう。

「自分たちの生活は自分で守る。」

「情報にのまれることなく、自分で考え 行動する」

★参考 主穂営農 HP ・ 毎日新聞縮小版